

(別記)

## 令和5年度白馬村農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当村は、長野県の北西部にあり、北アルプスを背にして標高700mの高地に位置する積雪寒冷地です。

このような地域特性のもと、本村では零細な水稻依存の農業が行われてきました。

現在も地域農業は水稻中心に行われていますが、担い手への農地利用集積が進んでおり、農業法人等による、主食用米、転作作物としては、そば、大豆を中心に新たな高収益作物等の取組みが進められています。

一方で、山間集落を中心に、農業従事者の高齢化や農家戸数の減少が顕著であり、中山間地域等直接支払・多面的機能支払制度等により維持を図っていますが、将来に向けた水田の維持が課題となっています。

### 2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当地域の夏場の冷涼な気候を利用した作物生産に取組む。また、基盤整備完了田における高収益作物の作付は、担い手農家への農地の集約化を図ると共に機械化によるコスト削減を進め、白ネギ、ミニトマト、ジュース用トマト、キャベツ、たまねぎ、落花生、スイートコーン、ジャガイモ、サツマイモ、ブルーベリー、スモモ、プルーン等の導入により収益性の向上に取組むと共に、地力増進作物の作付けによる土づくりを合せて進める。

### 3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

・ほ場整備田は水田として農業法人等、地域の担い手農家に農地の利用集積、集約化を図り、機械化された水稻を中心に作付を進める。また、地力増進作物の作付けによる土づくりを進めブロックローテーションによる、高収益作物等の導入を図る。

・水田の利用状況等の点検は、農業者の営農計画書を基に毎年現地確認等で精査し、畦畔・水路等を考慮しつつ、耕作者、地主との今後の利用検討により、畑地化支援を活用した畑地化や、ブロックローテーションによる体系の構築を進めて行く。

### 4 作物ごとの取組方針等

#### (1) 主食用米

認定農業者等の、地域の中心となる経営体への農地の利用集積を推進し、効率的な作業体系の確立及び生産性の向上を図る。

主食用米の需要に見合った適正生産を進め、消費者ニーズにあった主食用米の作付を推進する、また、当村の知名度を生かした白馬村産米のブランド化に取組む。

大規模なほ場整備事業が進められている地域においては、農業の近代化を図りながら、農地の集約化によるコスト低減を進める。

#### (2) 備蓄米

・取組みなし

#### (3) 非主食用米

・取組みなし

ア 飼料用米

イ 米粉用米

ウ 新市場開拓用米

エ WCS 用稲

オ 加工用米

主食用米とは別枠の生産で、非主食用による転作作物として農業者の要望により生産拡大を図り、低コスト栽培の技術導入を進める。

(4) 麦、大豆、飼料作物

農業法人等の、地域の中心となる経営体への農地の利用集積を推進し、効率的な作業体系の確立及び生産性の向上を図る。

また、本村に適した品種や生産性向上のための技術を検討するとともに、適期播種・適期収穫による品質の向上に取り組む。

(5) そば、なたね

農業法人等の、地域の中心となる経営体への農地の有効活用を推進し、効率的な作業体系の確立及び生産性の向上を図る。

また、担い手に農地を集積し、遊休荒廃農地の防止、品質・生産性の向上に取り組む。

「そばの里白馬」をキャッチフレーズに、地域特産物としての確立を図る。

(6) 地力増進作物

ほ場整備田への高収益作物導入に当たり、緑肥作物のソルガム、エンバク、ライムギ等のすき込みにより土壌の物理性・排水性の改善、有機物の供給・地力増進・養分補給等土づくりを行い、白ネギ、ジュース用トマト、タマネギ、ジャガイモ、キャベツの作付拡大を進める。

土壌の生物性の改善指針

栽培品目	定植時期	緑肥種類	緑肥栽培スケジュール			
			播種	高刈り	細断・すき込み	備考
白ネギ	4/下～5/上	ソルガム (前年)	6/中	8/中	9/中～10/上	粗大有機物の供給と排水性改善を図る場合
ジャガイモ	4/下～5/上		6/中		8/中～/下	分解を促進し、養分供給等を目的とした場合
ジュース用トマト	5/上～5/中					
玉ねぎ(秋植え)	10/中～10/下	ソルガム (前年)	6/中		8/中～/下	
玉ねぎ(春植え)	4/上～4/下					
秋どりキャベツ	7/下～8/下	エンバク	4/上		6/上～6/下	
		ライムギ	10/下		5/上～/中	

(7) 高収益作物

「地産地消」を推進し、村内で生産された安全で新鮮な農産物を提供するため、農産物直売所との連携強化を図るとともに、学校給食、村内飲食施設等での消費拡大に取り組む。

アスパラガス、トマト(中玉トマト、ミニトマト含む)、白ネギ、スイートコーン、ジャガイモ、サツマイモ、イチゴ、ジュース用トマト、たまねぎ、落花生、キャベツ、ブロッコリー、ニンジンについては、重点作物として進め、ブルーベリー、りんご、スモモ、プルーン、ぶどう、食用ほうずき、にんにく、枝豆、かぼちゃ、ウド、りんどう、ヒマワリ(切り花)、アスター(切り花)等については園芸振興作物として振興して行く。

令和2年度から整備を進めた圃場整備事業に伴う高収益作物の導入を地域の中心経営体への集約により令和4年度より取り組み、令和7年度5haの作付けを目標に農地の畑地化を進める。

水稻を作付したほ場では、地力が不足するため地力増進作物を作付し、春・夏・秋のいずれかのすき込みにより土づくりを進め、白ネギ、ジュース用トマト、タマネギ、ジャガイモ、キャベツの高収益作物の作付拡大を進める。

## 5 作物ごとの作付予定面積等

～

## 7 産地交付金の活用方法の明細

活用明細のとおり

## 5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和5年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	413.9		410		410	
備蓄米						
飼料用米						
米粉用米						
新市場開拓用米						
WCS用稲						
加工用米						
麦	5		4		4	
大豆	35.04		36		36	
飼料作物						
・子実用とうもろこし						
そば	100.06		110		110	
なたね						
地力増進作物	0.35		1		1	
高収益作物	12.2		13.9		13.9	
・野菜	11.1		12.5		12.5	
・花き・花木	0.3		0.3		0.3	
・果樹	0.8		1.1		1.1	
・その他の高収益作物						
その他						
・〇〇						
畑地化			74.77		74.77	

## 6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	そば（基幹）	産地推進品目生産性 向上支援	農地集積の維持	（R4年度）100.06ha	（R5年度）110ha （畑地化）46ha
2	麦・大豆（基幹）	産地推進品目生産性 向上支援	農地集積拡大	（R4年度）39.94ha	（R5年度）40ha
3	アスパラガス、トマト（中 玉トマト、ミニトマト含 む）、白ネギ、スイート コーン、ジャガイモ、サツ マイモ、イチゴ、ジュース 用トマト、タマネギ、落花 生、キャベツ、ブロッコ リー、ハクサイ、ニンジ ン、ダイコン、食用ほうず き、ニンニク、エダマメ、 カボチャ、ウド（すべて基 幹）	地域重点作物 生産拡大支援	作付面積の拡大	（R4年度）8.9ha	（R5年度）12ha
4	ブルーベリー、スモモ、プ ルーン、ブドウ、モモ、リ ンゴ、リンドウ、ヒマワ リ、アスター（すべて基 幹）	地域振興作物生産拡 大支援	作付面積の拡大	（R4年度）0.8ha	（R5年度）1.1ha
5	そば、大豆、麦 （基幹・二毛作）	ブロックローティショ ンによる輪作体系の取 組み支援	ブロックローテ イションによる 輪作体系	（R4年度）0ha	（R5年度）4.0ha
6	そば （基幹）	そばの取組（地域の取 組に応じた配分）	農地集積	（R4年度）100.06ha	（R5年度）110ha （畑地化）46ha
7	地力増進作物（基幹）	地力増進作物導入によ る土づくり支援（地域 の取組に応じた配分）	支払い対象面積	（R4年度）0.35ha	（R5年度）1.0 ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：

協議会名：

整理番号	用途 ※1	作期等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	産地推進品目生産性向上対策支援	1	5,000	そば(基幹)	農地集積の維持
2	産地推進品目生産性向上対策支援	1	5,500	麦(基幹)・大豆(基幹)	農地の集積拡大
3	地域重点作物生産拡大支援	1	40,000	アスパラガス、トマト(中玉トマト、ミニトマト含む)、白ネギ、スイートコーン、ジャガイモ、サツマイモ、イチゴ、ジュース用トマト、タマネギ、落花生、キャベツ、ブロッコリー、ハクサイ、ニンジン、ダイコン、食用ほうずき、ニンニク、エダマメ、カボチャ、ウド(すべて基幹)	作付面積拡大
4	地域振興作物生産拡大支援	1	35,000	ブルーベリー、スモモ、ブルーベリー、ブドウ、モモ、リンゴ、リンドウ、ヒマワリ(切り花)、アスター(切り花)(すべて基幹)	作付面積拡大
5	ブロックローテーションによる輪作体系の取組み支援	2	15,000	そば、大豆、麦(基幹・二毛作)	ブロックローテーションによる輪作体系
6	そばの取組(地域の取組に応じた配分)	1	20,000	そば(基幹)	農地集積、農地の維持管理を図る
7	地力増進作物導入による土づくり支援(地域の取組に応じた配分)	1	20,000	地力増進作物(基幹)	地力増進作物作付による土づくり

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする用途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は用途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする用途は「1」、二毛作を対象とする用途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする用途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする用途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。